



十中だより

9月号

令和6年 9月 5日
文京区立第十中学校
校長 南 英昭

夏を乗り越えて

夏季休業期間が終了し、9月2日(月)より2学期が始まりました。今年の夏は、前半は厳しい暑さが続き、後半は台風による暴風や大雨、地震などの自然災害が各地で発生しました。日頃の防災対策や準備、そして正確な情報収集の大切さを再認識する機会ともなりました。

そのような状況の中でも、十中生はこの夏、部活動にも励み大会等で活躍する場面が多くありました。この過酷な夏を乗り越え、心身ともにひと回り成長した姿を新学期でもみせてくれています。

～平和の祭典～

今年の夏は、世界的なイベントであるオリンピックがフランスのパリで開催されました。日本選手の活躍もあり、視聴した人も多かったのではないのでしょうか。そもそもオリンピックは、一人の教育者ピエール・ド・クーベルタンが平和を願って1896年に始めたのが第1回近代オリンピックです。争いが絶えない中でも戦争を休戦して行われていた古代オリンピックという祭典をもとに始まったとも言われています。100年以上かけオリンピックは進化し、女性の参加や冬季大会の開催などを経て今では200以上の国と地域が参加する祭典となったのです。今でもオリンピックは、単なるスポーツ大会としてだけでなく世界を平和にしたいという願いが込められた祭典でもあります。

平和学習

「文京区平和特派員事業へ参加して」

(宮下 淳 主幹教諭)

今年度から新たな事業として文京区教育委員会主管の平和特派員事業が始まりました。各中学校第2学年の代表者2名ずつ計20名の生徒が、7月30日から8月2日までの3泊4日で、沖縄県うるま市へ行き平和学習を行いました。現地を訪問する前にも歴史や文化について学び、うるま市の中学生とも事前にオンラインでの交流を重ねてから現地へ向かいました。

現地では、平和学習として、第2学年の生徒全員で折った千羽鶴を奉納したひめゆりの塔や防空壕(ガマ)の見学を行いました。また、うるま市の生徒と一緒に体験したエイサー(民舞)を通して歴史と文化についても学ぶことができました。特に、「平和」をテーマに文京区の生徒とうるま市の生徒で意見交換をする場面では、「平和とは何か」について議論し、「今ある普通の生活こそが平和なのだ」など、積極的な話し合いが行われ、本事業の目的である「平和」について、深く学び考えることができました。

また、海洋体験を通して、沖縄の豊かな自然を満喫し、タコライスやソーキそばなどの食文化にも触れ、充実した4日間を過ごすことができました。

代表生徒は、この平和特派員事業を通して新たに考えたことや学んだことを学習発表会等の場で全校生徒に伝え、各学校に還元していきます。



ひめゆりの塔の千羽鶴



現地の中学生との交流

表彰、活動報告等

活動の名称	実績・連絡・案内等
男子バレーボール部	文京区総合体育大会 第3位
バスケットボール部	東京都夏季選手権大会出場 [女子] 文京区総合体育大会 [男子]出場 [女子]第3位
ソフトテニス部	東京都夏季選手権大会出場 [女子団体]
卓球部	東京都夏季選手権大会 [男子団体] 第5位 [個人] 男子6名、女子3名出場 関東大会出場(群馬県) [個人] シングルス 女子1名 文京区総合体育大会 [団体] 優勝 [個人] 男子 第1位、第2位、第3位、第3位 女子 第1位、第3位、第3位
バドミントン部	文京区総合体育大会 [団体] 男子 第3位 [個人] 男子シングルス第3位 男子ダブルス第2位 [1年生の部] 女子シングルス 第2位 JOCシングルス大会文京区予選会 女子 第1位
吹奏楽部	東京都中学生吹奏楽コンクール金賞(4年連続) 文京区中学校連合演奏会出演
体操競技	東京都中学校総合体育大会 [男子個人総合] 第3位 [跳馬] 第1位 関東大会出場(茨城県) 男子1名

【部活動の大会等で活躍した3年生2名の思いを紹介します】

[42人で勝ち取った金賞]

吹奏楽部 3年 月森 雪乃

今年は、部員が40人を超え、例年に比べ少し厳しいオーディションが部内で行われました。オーディション後は暗い雰囲気や涙を流す部員もいましたが、それは全員が真剣に取り組んでいた証拠だっただのではないかと思います。顧問の先生や指導員の先生方の指導のもと、今年は「ラッキードラゴン～第五福竜丸の記憶～」という曲を演奏しました。この曲は、水爆実験で被爆した第五福竜丸を題材に作られた曲のため、暗く儚い雰囲気を出せるように努力してきました。中学校最後のコンクール、42人全員で勝ち取った金賞は私の永遠の思い出です。これからは、引退までの残された大切な時間を、大切な仲間とともに悔いなく過ごしたいと思います。

[3年間の部活動を終えて]

卓球部 3年 永山 陽也

今年の夏、男子団体は都大会で負けてしまい、目標の1つである関東出場にはあと一步届きませんでした。結果はとても悲しかったですが、自分にとってはとても良い経験になりました。

一年生で関東・全国大会を経験してから、自分達の最後の大会でも絶対に目標達成するという強い気持ちで練習に励みました。理想の結果とはなりませんでした。この努力は決して無駄ではなかったと思います。そして、この夏の悔しい経験からはたくさん学ぶことができました。その1つがチームをまとめる難しさです。自分は男子のキャプテンとしてチームを引っ張れていると思っていましたが、大会が終わってから今一度思い出してみると、練習中での行動や準備などの細かいところで気を配れていなかったと感じました。この悔しい負けが、より周りを見て細かいところまで気を配れるようになりたいと思うきっかけになりました。

僕は二年半の部活動で多くのことを学び、そして悔しい経験もしました。これからも十中での経験を活かして頑張っていこうと思います。